アサンテ・サーナ！

中川利香

（友人Ｈ氏撮影）

タンザニアで働く大学時代の友人M氏を頼ってH氏とアフリカ入り。実は今回の旅には二つの心配事があった。ひとつは、大学時代に体育会バスケ部で腕をならしていたタフな両氏のペースについていけるか。見た目によらず体力がない私としては、頭痛の種だ。もうひとつは、アフリカ初上陸ということがなんとなく不安だった。

そんな私の心配をよそに、M氏は手厚くもてなしてくれた。そして、この旅で私は彼女の魅力を再確認することになる。今回は数あるエピソードのうち、一部を披露しよう。

笑顔が素敵なM氏は誰とでもすぐに打ち解けられる素晴らしい能力を持っている。これが現地でもいかんなく発揮されていた。気がつくとスワヒリ語で誰かと話し、笑っている。マーケット、ダラダラ（乗り合いバス）の中、至る所で。そんな彼女のパワーを感じつつも大爆笑だったのは、サファリの途中で立ち寄った土産物屋での出来事だ。「ここは高いから買わなくていいよ」と言っていた張本人が、真っ先に店員と価格交渉開始！（「えっ、ウソでしょ。まさか買う気？」…私の心のつぶやき）彼女の言い値に対し、「そんなに安くはできない」と店員。マサイのパパとママをかたどった彫り物（写真）をめぐって英語でのそんなやり取りが暫く続いた。そのうち、ドライバーがそろそろ出発したいのになぁ、とそわそわし始めたので我々は車に戻ることに。交渉決裂、と思った時だ。M氏が車に戻りながらスワヒリ語で「買いたくなったらまた来るよ」と言った途端、事態急変。あっさりとM氏の言い値になってしまったのだ。さすが！　まぁ、この種の話はよくあるかもしれないが、この時はあまりにも値が下がったので驚いた。しかし本人曰く、この交渉は失敗なのだそうだ。M氏が一目ぼれしたマサイの彫り物、一四〇～一五〇センチあるので旅の最中持ち歩くにはかなり邪魔になる。だから自分を諦めさせるためにも、ここまでは下げないだろうという値段を言ったらしい。ところが、形勢逆転。彼女は買わざるを得ない状況に追い込まれてしまったのだ。「こんなことならもっと安く言えばよかった～」という叫び声が車中に響く。でもその割にはえらくご満悦の様子だ。次の瞬間には「もう二つ買おうかな」。この切り替えの速さには脱帽！

さてこの彫り物、この後どうなったかというと、サファリのガタガタ道に耐えられるか不安だったため、土産物屋で一時預かりの身となった。最終日、空港に向かう途中でピックアップ。これからが大変。当然、機内持ち込みはできないし、預けると折れる危険大。チェックインカウンターのお兄さんとの交渉の末、fragile のタグを貼ってもらい、預け荷物ということで決着。我々も彼らも無事に帰ることができた。

●

M氏のきめ細やかな気配りのおかげで私の心配事はいつの間にか解消され、とても実り多い旅となった。アサンテ・サーナ！（どうもありがとう！）

（なかがわ　りか／アジア経済研究所新領域研究センター）